

啓発ソングに合わせ振り付け考案

体操で特殊詐欺防ごう

相次ぐ特殊詐欺被害を防ごうと、洛和会丸太町病院（京都市中京区）が中京署と連携し、京都府警の「特殊詐欺防止ソング」に合わせた体操を考案した。肩や膝を動かす全身運動を取り入れており、同署は「介護予防に取り組みながら、詐欺の実情も知ってもらいたい」としている。



府警が作った特殊詐欺防止ソングに合わせて体を動かす高齢者ら（京都市中京区・洛和会丸太町病院）

中京署と丸太町病院連携 介護予防と一石二鳥

被害者の約7割を高齢者が占める現状を受け、府警は今春、昭和の名曲「愛の水中心花」の替え歌となる詐欺防止ソングを制作。お年寄りに、より確実に防犯情報を伝えるため、歌に合わせて動きながら犯行手口や注意点を学べる体操を企画した。

振り付けは、高齢者のリハビリ指導に取り組む同病院職員の福田公雄さん（43）らが考案した。腕を大きく動かし、体を回転させるなどおなじみの曲調に合わせたストレッチに加え、足腰を鍛えるために四角形にステップを踏む動作も組み入れた。

同病院は6月から、市内の関連施設や地域の高齢者サロンで開く介護予防事業にこの体操を取り入れ、注意を促している。

北区の柴田正博さん（68）は「知人宅に怪しい電話があり、詐欺は身近な犯罪と感じた。覚えやすい振り付けで手口を知ることができて楽しかった」と話した。

府警によると、今年の府内の特殊詐欺被害は約1億3920万円（5月末）に上る。（富田芳夫）